

■ 歴史的分野

第 1 章

勝山市域の歴史ストーリー

1 大地形成と 恐竜の時代

勝山市で発見される恐竜化石が眠る地層（手取層群）は、中生代白亜紀前期（1億2,000万年前）に形成されました。この時代には、日本列島はまだアジア大陸の一部でした。その後、約2,000万年前に大陸の東縁部が裂けて、大陸との間に海が入り込み、日本列島が形成されました。このころ、恐竜はすでに地層の中で化石となった状態でした。恐竜化石が勝山で発見されたのは、昭和57年（1982）のことです。北谷町杉山でワニ類の化石が発見されたことをきっかけとして、現在までに6種類の新種を含む恐竜化石(化石鳥類を含む)が見ついています。北谷地区では手取層群が露出し、恐竜化石以外にも動物・植物等の化石が発見されており、恐竜時代の生態系が明らかになりつつあります。

2 先史 ～川と山の恵み～

「大地形成と恐竜の時代」でも述べてきたように、勝山のこの土地に人々はくらししてきました。現在のところ、勝山での最も古い人類の生活の痕跡は、猪野口南幅遺跡（猪野口地区）から出土した石器です。この石器は1万5千年ほど前の旧石器時代後期のもので、この時期には九頭竜川の形成した河岸段丘上で人びとが暮らしていたことがわかります。

縄文時代の勝山市域には多くの遺跡が見つかっており、福井県内でも屈指の繁栄を誇った地域です。市内には、縄文時代の草創期から晩期までの遺跡があり、その多くは九頭竜川やその支流が形成した河岸段丘上に立地しています。

赤尾池遺跡（平泉寺町）からは草創期の槍先形尖頭器が発見されました。村岡町の長尾山遺跡では多量のガラス質安山岩の石片が出土しており、法恩寺山で産出する石材を使った石器加工場と考えられます。県指定文化財の三室遺跡（遅羽町）からは、中期の竪穴住居や後期の配石遺構が発掘され、県内を代表する縄文遺跡です。上野遺跡（北郷町）、大島田遺跡（猪野口地区）などは、晩期の代表的な遺跡です。これらの遺跡から出土した土器は、北陸地方のみならず中部高地、太平洋側の瀬戸内、関西、東海地方との交流を推測させます。

弥生から古墳時代の集落の多くは、水田に適した低湿地に接する自然堤防や、山裾すそに多く立地しています。しかし、勝山市域ではこのような場所が少ないことから、ムラの形成も少なく、その結果、遺跡数は減少すると考えられています。そのような中でも、鹿谷町の本郷北遺跡や袋田遺跡などでは古墳時代初期の竪穴住居跡が見つかり、大渡城山古墳（平泉寺町）は4世紀後半につくられた方墳であることがわかりました。近年、三谷遺跡（勝山地区）からは、銅鐸をイメージして土で作られた銅鐸型土製品が見つかり、当市にも銅鐸文化の影響があったことがわかってきました。

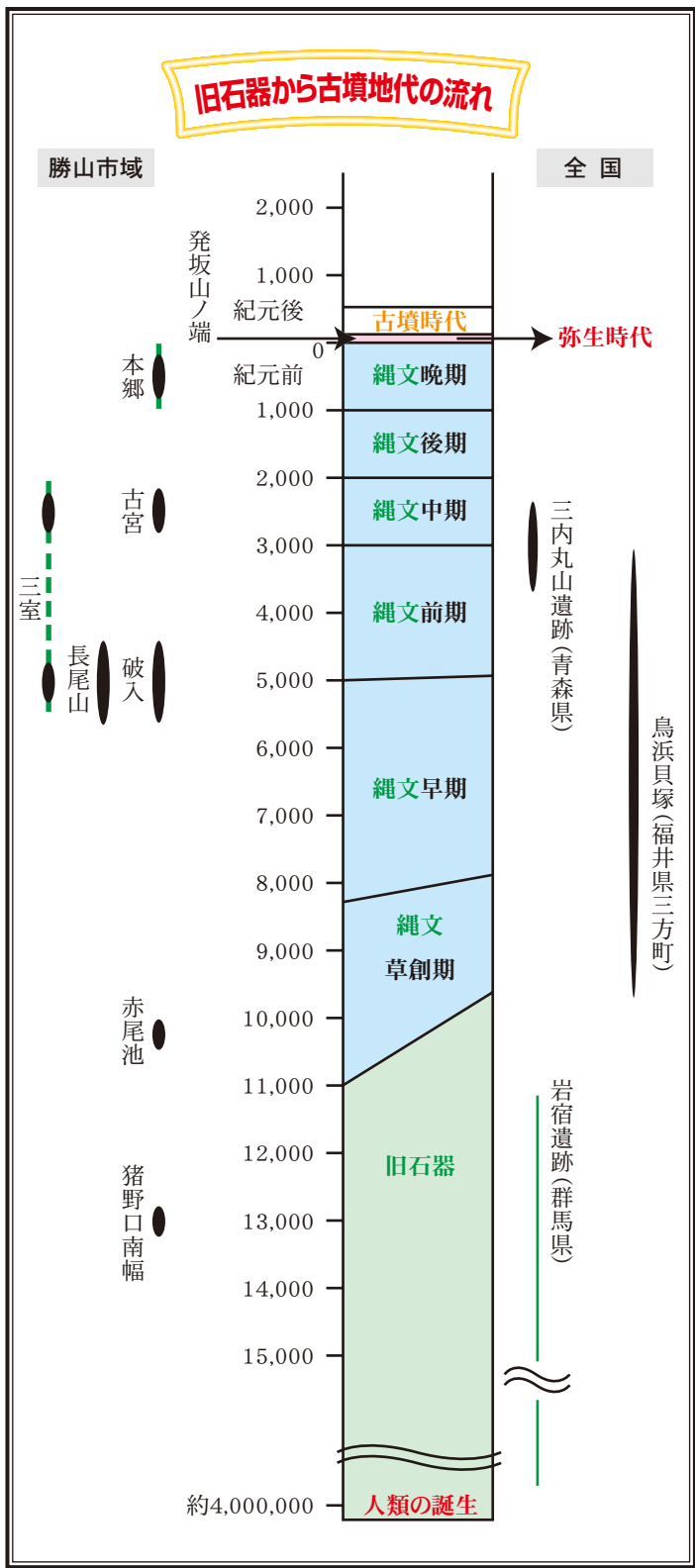
◆◆◆ 歴史にチャレンジ ◆◆◆

● 縄文遺跡と弥生遺跡を比べてみよう。
 ・人が住んでいる場所
 ・生活の様子
 ・土器のちがいを

● 福井県にある前方後円墳を調べてみよう。

● 勝山に大きな前方後円墳が
 つくられなかったのはどう
 してなのか考えてみよう。

やってみよう！



3 古代

～毛屋郷の開発と 平泉寺のはじまり～

奈良時代から平安時代の勝山市域は、越前国大野郡に属しました。市域の南部に当たる一部の地域が毛屋郷けやのごうと呼ばれていました。三谷遺跡からは「毛屋」の文字が書かれた須恵器が出土し、袋田遺跡・榎新田遺跡（勝山地区）などからもこの時期の土器が出土しています。また、猪野瀬地区の北市遺跡では多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり、毛屋郷の中心であったと考えられています。なお、「毛屋」の地名は近世の上（猪野）毛屋や下毛屋などの地名に引き継がれています。この時期の遺跡は、河岸段丘上に位置し、洪水の心配が少ない安定した地形に広がっています。古代には段丘上の開発が進んだことで農業生産力が向上し、人口が増えました。三室山は、その円錐形の山容から神が宿る神奈備山かなびやまとされ、麓ふもとの巨石群は神が降り立つ磐座いわくらと考えられています。また、山中の貴重な水源には信仰の場が形成されました。泰澄にまつわる伝説がそうした経緯をよくあらわしていて、その代表例が「平清水（平泉）[現在の御手洗池]」です。泰澄は養老元年（717）に白山を開いたとされる越前の僧で、彼が祈っていると白山神がこの池に現れたと伝えられています。平安時代にはこの池の周りに修行僧などの活動する場ができていきました。これがやがて白山平泉寺へと発展していきます。

4 中世

～平泉寺の発展と 「かち山」～

白山信仰の拠点である白山平泉寺は、平安時代に比叡山延暦寺ひえいざんの末寺となり発展していきました。最盛期の室町時代には、48社、36堂、6千坊、僧兵8千、寺領9万貫・9万石とうたわれた繁栄を誇りました。しかし、天正2年（1574）に一向一揆との戦いに敗れ全山焼亡しました。しかし天正11年、越前美濃国境から帰還した顕海によって境内の一部が再興されまし

た。市内には平泉寺町をはじめとして、泰澄あるいは平泉寺とゆかりのある場所や伝承が残されています。また、この時期の遺跡も、古代に引き続いて河岸段丘上に位置していることが多く、猪野口南幅遺跡や猪野毛屋遺跡（猪野瀬地区）、松ヶ崎杉原遺跡（荒土町）では掘立柱建物跡が見つかっています。猪野毛屋遺跡からは漆器椀・皿などが出土しており、村の暮らしの一端がうかがえます。

また、山中には山城が築かれました。三谷城（勝山地区）など平泉寺と関連のある山城や、野津又城（野向町）、保田【西光寺】城（鹿谷町）、壇ヶ城（荒土町）など、越前一向一揆と関わりのある山城があります。その中でも、一向一揆が白山平泉寺との戦いで、城を築き立て籠もったのが村岡山です。村岡山は一向一揆が白山平泉寺に勝ったことにちなんで「かち山」と呼ばれ、「勝山」の地名の起こりとなったと伝わっています。その後、一向一揆は柴田勝家によって平定され、勝山地域は、勝家の甥で柴田義宣の養子となった勝安が支配を任されました。

5 近世 ～勝山城下町と 周辺の村～

柴田勝安は、村岡山から袋田村(現在の勝山地区)に本拠を移し、河岸段丘の上に城を築きました。また、このとき村岡山麓さんろくの郡村から河岸段丘の下に移り住んだ人びとは郡町を形成し、袋田町、後町とともに後の勝山城下町いしずえの礎となりました。

柴田氏の後、領主の交代が続きますが、江戸時代初めの寛永元年（1624）には松平氏勝山藩が成立します。その後、幕府領となり、さらに元禄4年（1691）には小笠原貞信が入部して小笠原氏勝山藩が成立し、幕末まで継続します。また、この時期の市域には勝山藩だけでなく、郡上藩、鯖江藩、福井藩、さらには幕府の領地も置かれ、

複雑な支配体制となっていました。

小笠原氏は古城跡を利用して勝山城を再建しました。河岸段丘の上には城郭のほかに武家屋敷も整備され、すでに繁栄していた段丘下の袋田町・郡町・後町の三町とともに、近世城下町として再整備されていきました。近年は、勝山城跡・袋田遺跡の発掘調査も行われ、城郭の構造や町人のくらしぶりがよみがえりつつあります。

周辺の村においては、北郷町の旧木下家住宅をはじめとして、多くの歴史的な建造物が残されています。野向町の比良野家は勝山藩の大庄屋で、同家の離れ座敷には藩主が訪れました。また、勝山市域のほとんどの地区には浄土真宗の信仰の場である道場があり、人びとが集まって講を営む風習がありました。村の道場は信仰の場であるとともに、交流の場として村の寄り合い所を兼ねるところも多く、人びとの生活は道場を中心に営まれていました。

この時期には鉱山の開発も進みました。17世紀の『越前地理指南』には、小原、細野口、堀名中清水、檜曾谷(新町)の銀山と坂東島の鉛山、平泉寺の金山の跡が記されています。堀名銀山は、安政年間(1855~60)に幕府により本格的な採掘が行われ、多量の銀を産出しました。また、堀名や細野口には石灰山があり、農業用の石灰が生産されました。

6 勝山の藩校と筆塚



秦魯齋先生之碑

【設立の経緯】

19世紀になると全国の多くの藩で藩政改革が行われるようになります。勝山藩でも藩政改革が行われました。経済面では藩の財政を潤すため、たばこと生糸の専売制を実施しました。一方、困難な状況を乗り越え、新しい時代を切り開く人材を育てるため藩校を設立しました。

その中心となったのが藩医の秦魯齋はたるさいと藩家



林毛川肖像

老の林毛川でした。前途多難でしたが天保12年（1842）に読書堂が開かれ、2年後には成器堂と改称されました。成器とは「玉琢かずんば器を成さず」に由来しています。嘉永3年（1850）に完成し榎供養が行われました。その資金は民間から広く募集され、町内の有力町人や村部の豪農がこれに応じました。入学は最初武士に限られていましたが、後には百姓や町人も入学が許されました。

【教育の内容】

儒学や漢学を中心としてはいましたが、他藩と異なる教育が行われました。その1つが小笠原礼法を伝える家柄であることもあり、礼法を学ぶ習礼を重視したことです。2つ目は剣術・槍術など武芸が重視されたことです。その影響で鈴木定七など全国に名をはせた剣術家が生まれました。3つ目は医学教育が施されたことです。明治に入り勝山からは多くの医師が育ち全国各地で活躍するようになりました。

後身の成器小学校からは、全国的に名を知られるようになる西脇碁石や木下竹次など、著名な書家や教育者が育ちました。また、地元に残りこれからの勝山の産業界をリードしていこうとする多くの人材が育ちました。



神明社社務所

【旧成器堂の遺構】

明治に入り藩校の多くは取り壊されてしまいました。福井県でもその遺構として残るものは多くありません。ところが勝山市には、勝山藩の旧成器堂の遺構とされる建物が3か所に4つ残っています。講堂は現在勝山神明神社の社務所として利用されています。郡町の今井家には同じく門1棟と土蔵が残り、荒土町布市区には演武寮が残り布市道場として利用されてきまし



演武寮

た。いずれも勝山市の指定文化財となっています。

【寺子屋と筆塚】

読み・書き・算盤そろばんの3つは、新しい時代に乗り遅れないために必要でした。こうした考え方は身分をこえて19世紀以降急速に社会に広がっていきます。各村では道場や庄屋宅を利用して寺子屋が設立されるようになりました。学費は無料でしたが束脩そくしゅうとって、入学時に師匠に金銭や飲食物を渡しました。紙は貴重であったため、子供たちは盆の上に灰や糠ぬかをまいて、指先で文字を覚えました。教科書は「庭訓往来」「村往来」などが使われました。日常生活に必要な用語や模範文章が記載されていたからです。

明治5年（1872）、明治政府は「学制」を頒布し国民皆学はんぷの基本方針を示しました。そこには「必ス邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン…」と記されています。こうして各地に小学校が置かれるようになり、寺子屋は徐々に姿を消していきました。

【筆塚】

筆塚は寺子屋などで学んだ教え子が、師匠が亡くなった際、その学恩に報いそれを後世にまで伝えるため、塚あるいは碑の形で残したものです。そこには師匠の功績や門弟の氏名などが刻まれています。勝山市内にはいくつかの筆塚が残り、北郷小学校敷地には高原邁筆の筆塚が建っています。



高原邁筆塚

7

近現代

～たばこ・繊維産業の 隆盛から勝山市の 誕生と地域づくり～

勝山市域の近代的工業は、刻たばこと製糸業が出発点です。しかし、製糸業は明治29年(1896)の勝山大火で工場が焼失し大きな打撃を受けました。また、刻たばこ業は明治37年の煙草専売法により、たばこ製造が国の専売となりました。そのため、これらの業者が織物業へと転じていったのです。そして、第一次世界大戦にともなう好景気により、絹織物羽二重の輸出は増加し、勝山の織物業は栄えていきました。その後、時代の変化に対応して、人絹織物、合繊織物へと転換し、現在に至っています。

<コラム 近現代の日本と勝山>

I 大正期の日本と勝山

大正時代は1912年から始まります。明治27年(1894)と同37年の日清・日露戦争に勝利した日本は、欧米諸国と肩を並べられるよう、急速に産業を発展させていきます。特に大正3年(1914)から始まる第一次世界大戦以降は外国への輸出が大きく伸びていきます。

勝山では、明治時代のおわりから、たばこ製造業や製糸業に変わって織物業が発展します。また、発電所の建設にともなって手作業から、電気を使った機械による製品づくりを行う産業へと発展を遂げていきます。

発電所の営業開始

明治41年、京都電灯会社が中尾(北谷町)に発電所を設けました。それ以降、各地に水力発電所がつくられていきます。これにより機業の力織機(電力によりモーターを回して運転し織物を作る機械)運転に動力が使われるようになります。また、家庭には電灯がともるようになりました。

1914年になると勝山町の機業家によって「勝山電力株式会社」が設立され勝山町一本松で発電を行い、織物工場へ電気を安定的に供給できるようになりました。

織物産業の発達

ヨーロッパで第一次世界大戦が拡大すると、絹羽二重の輸出が伸び、量産と品質向上が要望されました。ボタン機(人力による手織機)は姿を消し、大正末期にはほとんどが力織機になります。

教育の進展

大正デモクラシーのもと、自由主義教育が広がりました。自主性を尊重する教育運動が盛んになりました



薬師発電所内部



紋機付力織機工場

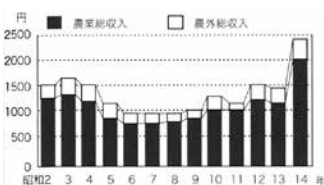
すが、こうした風潮の中で大きな指導力を発揮したのが勝山出身の木下竹次です。竹次は合科学習という考え方を唱えました。以下はその骨子です。複数の教科を統合しひとまとまりのものとして学習させる。統合し相互に関連づけることによって全体として人間関係をはかっていく。学習はすなわち生活であり、自律、真摯、そして教師の成長によって子供も伸び、子供の学習によってまた教師もまた学ぶ。現代にも通じる教育法として再び注目を集めています。

越前電気鉄道の開通

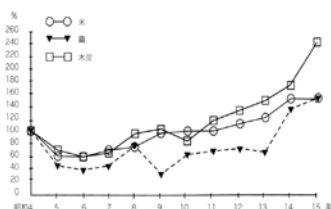
1914年、福井市から勝山町を通り大野町に達する「越前電気鉄道」が開通しました。翌年には町と駅をつなぐ勝山橋が、1919年には下荒井橋が、1923年には舟橋に変わり小舟渡橋が架設されました。これらにより勝山の交通は飛躍的に向上しました。

II 昭和初期

農家の収入



米・繭・炭の単価変動



昭和4年（1929）、世界恐慌が始まりこれが発端となって、経済不況から世界をまきこむ経済不安から世界を巻き込む戦争の時代になります。勝山もこの流れの中で戦争の渦に巻き込まれていきます。

世界恐慌の影響

世界恐慌の影響は、生糸の輸出不振から始まりました。生糸が輸出できないために、繭の値段が暴落し、それにともない他の農産物の値段も下落していきました。

このころ日本の軍部は、1931年に満州事変を起こして「満州国」を建国します。広大な未開地は理想の「共栄圏」であるとして、不況に苦しむ農家の二・三男を「満州開拓団」として送り込み

ました。

戦争による戦没者

日本は満州事変後も1937年に日中戦争、1941年には太平洋戦争へと戦争を拡大させていきます。勝山からも多くの人々が戦場に動員されました。1943年頃からは敗北と撤退が始まり、戦死者も急増し、戦死の公報が相次ぎました。

戦争中の人々の暮らし

1938年に「国家総動員法」が公布されました。直接戦闘には参加していない銃後の国民には、戦争を支える厳しい生活を強いられました。それでも国民は国の勝利を信じて「撃ちてし止まぬ」「滅私奉公」のスローガンのもとに、すべての生活を犠牲にして、軍需品や食料の生産に日夜励みました。

防空演習



村や町では各町内や隣保班^{りんぼはん}で空襲に備え防火用具を用意し訓練に励みました。また敵の上陸に備えて竹槍による訓練も行われました。

金属回収



戦争が激しくなると兵器の生産のため金属が不足しました。このため金属回収が行われました。寺の鐘から家庭の鍋までが集められ大砲や弾丸にされました。

III 戦後

戦後の人々の生活

終戦後、日本中の主要都市は空襲で焼け野原となり、被災者であふれました。勝山は多くの疎開者や疎開児童を迎え入れました。しかし人々の生活はなかなか元に戻りませんでした。食料の不足に苦しんだ人々は、農家をたずね歩き衣料などと米を交換しました。あらゆる種類の山菜を採集し、タンパク質を補うためいながも捕って食べました。



天皇勝山へ巡幸



葉煙草の収納



昭和 25 年参議院議員選挙

○天皇の人間宣言

GHQ（連合国軍総司令部）の指導の下、「人間宣言」を行った天皇は昭和 21 年（1946）から全国をまわりました。勝山にも立ち寄り機業を訪問しました。託児所の子供から「オンチャン」と呼びかけられる和やかさでした。

○農地改革

食料の増産と農村の民主化をはかるため、1946 年から「農地改革」が勝山でも実施されます。5 ヘクタール以上の地主の土地と、不在地主の土地を、国が安く買い上げ、小作農に売られました。

また、たばこなどの園芸作物の栽培も奨励され盛んになりました。

○民主政治の始まり

GHQ の指導による民主化政策は地方自治にも取り入れられました。地方自治法が制定されると町村長と議会の選挙が行われました。また労働運動も盛んとなり多くの労働組合が結成されました。

○教育基本法を受けて

民主化政策は教育制度にも取り入れられまし



勝山中学校
成器西小学校の竣工式

た。1947年教育基本法と学校教育法が公布されると、都道府県と市町村に教育委員会が設置され、六・三・三制の学校教育が始まりました。

1950年には勝山中学校や成器西小学校の竣工式が行われました。また、食糧不足のなかユニセフの援助で始まった給食は、制度化されて完全給食となっていました。

IV 勝山市の誕生と高度経済成長



勝山市役所の開庁式

勝山市の誕生

昭和29年（1954）9月1日、大野郡北部の勝山町と周辺8か村が合併し、人口約38,000人の勝山市が誕生しました。これは、市の設置基準が3万人から5万人に改正される直前の事でした。合併までには、それぞれの利害や思惑があって難航しましたが、ようやくまとまりました。

高度経済成長と勝山機業の躍進

1955年以降、勝山市の機業は経営を刷新し、合理化を進めました。工場を近代的に建て替えるとともに、新しい繊維（合成繊維）を使った織物の生産に励みました。

◆◆◆ 歴史にチャレンジ ◆◆◆



1 江戸時代はじめころの勝山の人々は、どのような暮らしをしていたのか、勝山市史などをもとに調べてみよう。

2 小笠原氏は、どのような経緯で勝山に入ってきたのだろう。

江戸時代のお百姓さんはどのような税金を払っていたのだろう。

3 勝山から福井市や石川県白山市の白峰、岐阜県の郡上市への街道あとを歩いてみよう。

また、勝山の城下町を歩き、史跡や商家、職人の屋敷跡などを調べてみよう。

- ・筆記用具やカメラなども持っていこう
- ・町の人たちに聞き取りもしてみよう

4 勝山にはどのような祭りや伝統行事などが残っているのだろう。

その、いわれなども調べてみよう。

